

SNOW TRAIN



M-HIRAI



北海道のオホーツク海に面する浜頓別駅に、国鉄時代の1983年冬に訪れました。

北海道でも最北端に近い浜頓別、ホームや建物の長いツララが、厳しい寒さを物語っています。

その厳しい冬の寒さとは対比的に、雪の中の古い駅のホームや国鉄時代の列車の風景は、旅情を感じさせます。

浜頓別駅は、かつて走っていた天北線の間駅で、ここから支線の興浜北線が分岐していました。

天北線と興浜北線は、共に今は廃止され、この風景は、もう見る事が出来ません。



根室本線、厚床（あつとこ）駅にて、強烈な地吹雪に遭遇。

猛烈な風と寒さで、雪は積もらず地を這いながら巻き上がり、この時の雪の降り方は、上から降るのではなく、下から降る様な、形容しがたい状態でした。

地元の人もこの様な天候は、年に一度か二度、あるかないかと聞きました。

普通列車が何とかやってきました。乗務員さんの顔が歪む。

猛吹雪の雪原



駅のホームの向こうには、猛吹雪の雪原が広がっていました。

とても人は安易には近づけない厳しい自然、駅が、唯一の人間界との接点の様な気がしました。

厚床（あつとこ）駅



北海道、根室本線、国鉄時代の厚床（あつとこ）駅、以前は標津線の分岐駅でもありました。

標津線は1989年4月に廃止されました。

客車列車到着



地吹雪もおさまり、遅れていた客車列車が到着しました。

厚床駅の近くには、牧場があり、サイロも見られます。

宗谷本線の貨物列車



北海道の最北端、稚内に近い、宗谷本線、抜海駅に到着する貨物列車。

この頃の貨物列車は、車掌車やいろんな種類の貨車が連結されていました。

国鉄が民営化されJRになると、この様な一般貨物列車は、廃止され見られなくなりました。

又、抜海駅を通る貨物列車は、1984年に、宗谷本線の名寄以北の貨物輸送が廃止され、見られなくなりました。



宗谷本線、抜海（ばっかい）駅に到着した客車列車、隣には前ページの貨物列車が、止まっています。

雪で真っ白なホームを少年が走って行く、この抜海駅の周辺には民家は、ほとんど無く、乗降客は、非常に少なそうです。

客車列車には、郵便車が連結されていて、前2両が郵便車、後ろ2両が客車です。郵便の輸送も国鉄からJRに民営化される際に、廃止されました。

客車に乗り込み、抜海駅を後にしました。

~~~~ SNOW TRAIN 第1部 終わり ~~~~